
14歳の恋愛日記

M i n k

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

14歳の恋愛日記

【著者名】

N3167D

【作者名】

Mink

【あらすじ】

14歳の、気弱な女の子が気弱な男の子に恋をした…何もかもが初めて、そんな初々しい恋人たちの心が温まる日記。感動的な話ではなく、共感のもてるお話です。意外に見れるようで見れない、他人の日記帳を覗いてみましょ。

A
H
A
P
P
Y
N
E
W
Y
E
A
R
!

これは、慶太くんとの仲が深まるようになって、

おまじないをかけた田記帳です。

昨日友だちのあゆみちゃんが「おまじないを教えてくれたんだ。

「美月ちゃんにピッタリのおまじない教えてあげる」。

1月1日は日記帳を一冊の、それで1ページの一番上に好きな人の名前をつけて一日も欠かさず彼とのことだけを書いていくんだって。

いよ。」
て、その時にはじめから書いてぐと、後で読み返した時に忘れない。

~~~~~

でもこれ、一生他の人に見せられないな……

と/orて/それば量いとし

「因○一ノ特技一ノノハシ」

やつぱ優しいな、慶太くん。今年もよろしくね……

## 1 / 2 天気 晴れ

冬休みって…つまんない。。。  
まだ私は中一だけどさ、勉強できないんだもーん！  
慶太くんとも会えないし…どうしようかな？

しようがないから、出会った日のことについて書こうと思います。  
4月の新しい学校での入学式。

私は、国立の学校に受かつたので、たつた一人からのスタートになつた。

(つまんないなあ…)

でも、しようがない。

だつて、前の学校では、いじめられてばっかりだつたから。

私は、何度も家に逃げ帰り、先生にも、親にも、一杯迷惑ばっか  
かけてた。

だから必死に勉強して、この学校に入った。

もう人に迷惑なんてかけない。もう、一人で頑張つていこう。

そう思つてたのに…

新しいクラスになつて、わたしは、あゆみちゃんつていう親友が

できた。

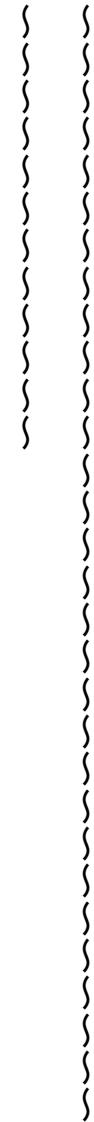
でも…ただそれだけだつた。私へのいじめは終わらない。

あゆみちゃんがいて本当によかつた。まだ、仲良くしてくれる子  
がいたから。

私がいつも屋上に行くたびに、あゆみちゃんだけが励ましてくれ

てた。

あゆみちゃんがいるから、私は学校に来れる。



「「めんね、「めんね……」

「うそ。なんで…

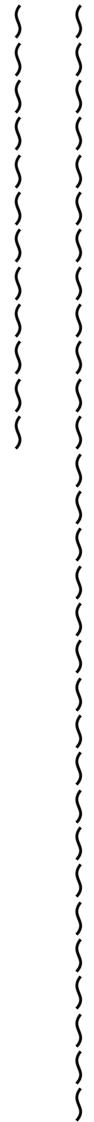
「市立の学校に…行つちゃうの？」

「親がいなくなっちゃって…お金が払えないからって……」

そのあとはなにも言わず、ただ泣いてるだけだった。

そうだよ、一番つらいのは、あゆみちゃんなんだ…

「これから、一人で頑張ってね…」



それからは、ずっと一人だった。

でも、頼つてた人がいなくなつて、私はずいぶんと強くなつたかも知れない。

わたしはやつと、普通の友だちとして、みんなと接することができるようになった。

だけど…やっぱり自分から言いたいことが言えない、そんな日が続いてたある日。



私はいつもの屋上で、そんな自分の惨めさに泣いてた。

すると、私の田の前に、おつきな影ができた。

「……だいじょうぶ？ 林さん。」

だれ？

私はアッと顔を上ける

背は私と同じくらいで、かわいい女の子っぽい顔つきだつた。わたしは、今までで感じたことのない気持ちでいっぱいになつた。弘二普通の話つぶやく男の子が、この人が刃わし「じゅうじゅう」。

人からはよく変わつてゐるつてからかわれててさ。

一人になつた時にはよくここに来るんだよね……

卷之二十一

「僕と似てる」というと失礼だけど、林さんなら話しあうかなって思つて……」

100

「友だちにならなくてください」

彼は、顔真っ赤つかにしてそんなこと言ってたつて。

今考えると、そんなことあり得ないと書いてたけど、ホントにあつた話。

あれ以来 私は学校に来る理由が一  
慶太くんの顔が、いつも離れないんだ。

さてとも二寝なくせや

あ、そうだ、明日にでも慶太くんにメール…してみようかな。  
緊張するよ…っ！

1/1 芦田慶太くん 1/2 (後書き)

「～～～」で挟まれているところは美月たちの回想シーン、「．．．」で挟まれているところは次の人との境目とお考えくださいませ。ぐだぐだで申し訳ありません～（どうかお手柔らかに～）

## 1／3（前書き）

今日は生まれて初めて美月が好きな男の子・慶太にメールを出します。美月の1／3の日記です。

今日、とうとう慶太くんにメールをしました！

そういえば、私も自分用のノートパソコンをもって初めてのメール友なんだよね..

ホントどうすればいいのか分からなかつたし、もつ、緊張しまくりだつたよ~（汗

で、冬休みだつたからかもしないけどすぐにメール返してくれて嬉しかつた！

「う~ん……何を書けば良いんだろう？」

わたしは母からの譲りものの古いパソコンの前で既に6分ももだえていた。

・・・ダメだ！

「せんつせんわかんない……ダメだ……あゆみちゃんに電話しよ……」

私はとうとうギブアップしてあゆみちゃんに電話をかけた。

「大丈夫だよ~。自分の気持ちを素直に書けばきっと伝わるよ~。」

「そ、そ、う、か、な、」

「そ、う、だ、よ、。も、つ、と、自、信、持、つ、て、」

ためしに、なんか書いてみなよ~。…そ、…あ、ダメダメ、もつとこんなこと言わないと…」

「え、むりだよ~！」

…とか言いつつ、何とかこんな文章を完成させた。

『 枝田くんへ

明けましておめでとう~一年賀状ありがとう。すいぐ嬉しかつたで

す。

休みばかりで芦田くんに会えなくて寂しいです…  
みんなと家が遠いみたいで友だちに会えないから、  
芦田くんとメル友になれてとっても嬉しいです！  
でも、私はパソコンだからすぐに返事返せないかも知れないので、  
許してくださいね（笑）

メール、待つてまーすっ

林『

こんなのは、絶対引くと思つてたのにさ、送信してすぐに返事返つ  
てきたんだ。

「わっ、もう返つてきた！ええっと…

『林さんへ、

メールありがとう。僕もパソコンだからすぐには分からないかも  
知れません。

その時は気軽に待つてくださいね。

僕も林さんに会えなくて寂しいです』…え？

慶太くんが…私のことを？

私はそんなことばが並べられたパソコンの前で顔を真っ赤にして  
いた。

慶太くんが、私のことを考えてくれてる。

そう思つただけでホントに心臓がバクバクして、  
もう、ホントやばかったよ～！！  
で、そのメールの続きで、な、なんと

『メールだけだと大変なので、電話番号を書いときます。

『 埃は夕方頃終わるので、8時からならいつでも大丈夫です。でも、あんまり長電話だと怒られるかな（笑）』って書いてあつたんだ！

どうしようつ！わたし、慶太くんに近づくことができたかな……？

- 9 -

私は自分に自分で気合いを入れ、パソコンに文章を書き込んだ。

『芦田くん』

お返事ありがとうございます。すぐ返ってきたからね、ビックリしたよ。

あの、明日、8時に電話していい？

10

パチツ

いいよ。待つてます。

やつた！

と、いつのわけで、明日、勇氣を持つて電話しようと思います！  
たぶん、今年一番の勇氣を持つて電話します（もつー？）  
明日が楽しみだな

(Fin)

### 1／3（後書き）

なんか、日記本文より回想シーンの方がよっぽくな…反省です…早く腕を上げるぞ！（笑）

## 1／4（前書き）

今日はとうとう美月が初めて好きな男の子、慶太に電話します。その様子と、1／4の美月の日記です。

今日は、とうとう慶太くんに電話しました！（しかも30分も！）  
もう、ほんとヒドキドキして、かなわなかつたよ

レーベン、アーヴィング

田舎に生れ田舎で死  
ちょっと早すぎたかな…

はい、  
芦田です。

卷之三

『あ、林さん！早かつたね。』

卷之二十一

植田くんの声だあ……やつ思つと、なかなか話やつと思つたことが  
話せない。

とにかく言葉が詰まり、かんでしまつ。

えと……今年は初譲、行つた？」

『うふ。君の二三の御用事は、お詫びする。

「えつ！御国神社つてあのハ

『 そ う だ よ 、 何 で 知 つ て る の ？ 』

嬉しかった。もしかしたら…

「もしかして、うちはその近く？」

『うん、ハピマ（ハッピーマーケット）の裏。』

ほんとに!

つい、声が大きくなってしまった。だって、休みの日も会える距離だから。

その後の話で分かつたんだけど、私の家と慶太くんの家はちょうど敷居があつた所で、ちょうど違う学校だつたみたい。もうその後は地元ネタで盛り上がり、めっちゃ楽しかったよ。

『あの、 や……』

「なあに?」

私は急いでサニーオークへ向かった。

『早く…始業式になつてほしいよね。』

「え…なんで？」

(林さんに会えないから…なんて)

『だから想像  
しゃ妄想だな。  
わたしは、ひとりでに笑うた  
だつてや…』

「うん」

『友達にも会えないし…』  
やつぱりね。ちょっとだけ妄想した私がバカでした。

「… そうだよね！」

『それに…』

『林さんにも… 会えないし。』

…えつ？

「… ほんとに？」

慶太くんが… 私のことを？

『……うん。』

慶太くんの声が、段々聞こえなくなつてくる…

しづかの沈黙…

『あ……そうだ、始業式の日、空いてる?』

沈黙を破ったのは、慶太くんのその声だった。

始業式の日、どうだったかな……?

えへっと……

「空いてる……けど?」

『ひが、遊びに来ない?』

……!?

「い、いいの?」

『うん。』

顔に手をやつた。熱かった。

鏡見なくても分かる。いま、私の顔は真っ赤っかだ……

『「……ありがとう。』』

同じタイミングで、勝手にでてしまったことばだった。

~~~~~

その後は、もう慶太くんからは何も喋つてこなかつた。相當……悪戯……出したんだらうな……

……

私が、言つつもりだったのに。
さき、『やせちゃつたな・・・。
これで、電話とおさそいで、一勝一敗。
告白だけは、絶対負けられない。私が、言つてやる。

(F·i·c)

1 / 4 (後書き)

今回があえて電話のシーンを増やしました。次こそ、次こそは日記を増やしまよ…（ホントすみません～）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3167d/>

14歳の恋愛日記

2010年12月18日23時40分発行